

発行／
大阪から公害をなくす会

〒540-0026 大阪市中央区内本町2-1-19 内本町松屋ビル10 370号
TEL 06-6949-8120/FAX 06-6949-8121
E-mail : oskougai@coast.ocn.ne.jp URL http://oskougai.com/

発行責任者 金谷 邦夫 毎月10日発行 個人会員 月250円

のびたき
画・加納忠



シリーズ 夢洲の抱えている問題

今、大阪府・市が、万博誘致に奔走している会場予定地「夢洲」は、登記簿上はまだ「海」です。万博の2025年開催まであとわずか5～6年で、ここを会場として整備するには、いくつかクリアしなければならない問題が山積みです。

これら諸問題を「公害をなくす・環境を守る」視点から、シリーズで問題提起していきます。①夢洲の持つ危険性、土壌の脆弱性・巨大地震・巨大台風

等の影響。②廃棄物最終処分場であることによる環境汚染問題。③瀬戸内法に基づく埋立形態を変更することの問題点。④万博を口実に再びベイエリア巨大開発をすすめる財政的危険性。⑤そのための強引な政治駆け引きの「都構想」などです。

第1回は、大阪湾岸に設置されている「石油タンク」による巨大火災の危険性です。

① 万博やカジノ予定地は 危険地帯のど真ん中

大阪府・地震津波被害想定検討部会は大坂北港地区における被害想定として「危険物タンクの大半が津波により移動する可能性があり、油類が最大 2.7 万 kℓ (50m プールに換算すると約 8.7 杯分) 流出するおそれがある」とし「油類が着火した場合、一般地域への影響がある火災等の災害が発生する可能性がある」としている。

なお、1974 年に起きた、水島コンビナートでのタンク破損に伴う海上への重油流出量は 7500 ～ 9000kℓ とのこと、それでも瀬戸内海を油まみれにしてしまった。

万博やカジノ予定地の夢洲は、この北港地区（此花区の西部）・危険物タンク群とは僅か 1 km 程度しか離れていない。さらに鉄道交通機関が不便であるため、通勤

等に自家用車が多く使われている。津波で大量の車が被害に遭い、漏れ出すガソリンにバッテリーの火花で、いとも簡単に火災になるのは容易に想像できる。

また、夢洲に設置されている大規模なソーラー発電パネルは、破壊されて災害救助活動を妨害したり、二次災害を生み出す。

そんな危険地帯に多くの人たちを呼び寄せるのは余りにも無責任と言わざるを得ない。万博の場合、6ヶ月間で約2,800万人、平均すれば毎日15万人が押し寄せる。連休など集中する期間は毎日 40 ～ 50 万人の来客もあり得る。

また、万博は夏場開催なので去年のような強風台風が襲来すれば、パビリオンの破壊、来客者への被害、そして大型クルーズ船が右往左往すればさらに甚大な被害が!! 浮かれている場合ではないはず。

(沢村秋則)



大阪府庁舎から見たタンク群